

沖繩リポート④

自衛隊イラク派遣

小嶺 幸 男

日本は1月に自衛隊をイラクへ派遣しました。

国民は何が何だか分からないままの派遣でした。自衛隊を先ず丸投げし、それから政府の説明と云うか言い訳です。曰く、イラクの南部サマワで給水、医療、施設復旧などの人道復興支援活動を行うためだ。また、現地の要望を入れて雇用を創出する云々。日本国民への説明をせず何故急ぐ派遣なのか納得出来ません。

自衛隊の戦闘状態が続く外国への派遣は初めてのこと。しかも派遣は国会承認に先立って行われています。国会でも与党による強行採決。野党はぶいど欠席し全面対決のポーズです。政府はアメリカに遅れるなど言わんばかり。日本は一九九一年の湾岸戦争

争では多額の資金援助協力をしながら、アメリカから評価されなかったテツを踏むまいと必死のようです。

今回の日本の自衛隊派兵は、アメリカから「ブーツ・オン・ザ・グラウンド(地上兵力を)」とあからさまに要求されたからだったとか。フタを開ければ英国、オーストラリアに次ぐ早さです。

沖繩では、すぐさま自衛隊派遣に抗議する平和団体や労組が航空自衛隊那覇基地前などで集会を開きました。イラク派遣の輸送機は次々と那覇空港から離陸します。

混沌としたイラクの泥沼化は、かつてのベトナム戦争のようによく続くでしょう。部

リフォームの「相談はファビルス
お問い合わせは414611へ

族間の対立も深刻だとか。自爆テロも後を絶ちません。

私は、私ごとで恐縮ですが盲腸の手術を受けたばかりです。町に出て、自衛隊派遣に抗議する若者たちの行動を直接見ることはしません。マスコミ

ミの報道に接するだけです。私は、若い時分に労働組合や復帰運動に燃えていたものです。今、思い出さずにはいられません。

沖繩は太平洋戦争では唯一地上戦を体験しました。沖繩戦と言われる所以です。本土は、そつした沖繩を切り捨てて講和条約を結び連合国の占領から独立したのです。

私たち沖繩の若者は祖国復帰運動では健気にも日の丸を掲げ、日の丸の鉢巻きをして行ったものです。

私たちの行動理念は日本国憲法、平和憲法に帰ることです。当時の沖繩は、アメリカ軍の司令官が高等弁務官として旧憲法に於ける天皇のよう

に存在する社会でした。沖繩戦を制したアメリカ軍がそのまま占領統治するオキナワにあっては、住民には将来の夢が持てません。終戦直後の本土の都会でも数年間は連合軍の占領下にありました

ので、お年寄りには経験があまりの方も多いでしょう。私は祖国復帰を目前にして、

日本政府の代表を睨みつけました。オキナワの住民の夢が叶い祖国復帰を果たそうとする、その時にです。

沖繩の米軍基地はそのままに一九七二年に、祖国復帰をするといのです。基地の態様を変えずに施政権を返還すると言つのです。

冗談じゃない。若者たちは日の丸を捨てて赤旗を振り回しました。核兵器を保有したまま米軍基地はそのままに沖繩を返還するといつのです。これは本土の沖繩化を意味します。

イラクへの自衛隊派遣は、比較的治安のよい南部の地方都市サマワだから問題はないのではないでしょう。政府は混迷が続くであろうイラクでの被害者、殉職者は英雄に祭り上げようとしているのではないでしょうか。

イラク支援に向かう日本に対してイラクの市民は、大きな期待を寄せるでしょう。同時に、タリバンやアルカイダなどの武装集団からはテロの標的とされるかも知れぬことを忘れてはならないでしょう。

アメリカは日本に対して自衛隊派遣のように目に見える形でのイラク支援を期待します。アメリカでは軍産共同体のタカ派とネオコン(新保守勢力)が勢いを得ています。戦争の継続は軍需産業を潤し、ブッシュ政権は秋の大統領選を睨んでいるのです。

日本は浮かれていてはなりません。平和憲法が存在します。派遣を決めたのなら、撤退する勇気をも併せ持つべきでしょう。≡筆者は那覇市在住。詩人≡

財団法人
黒田奨学会
福岡市中央区大名2-2-41-308